

Book Review

自著によせて・・・松本信二

■ 建築技術のかけ橋—建築技術支援協会設立 10 周年記念誌／建築技術支援協会 編



建築技術支援協会（PSATS, サーツ）の活動の柱の一つとして、建築・住宅の技術に関する情報発信がある。この目的を実施するために、協会設立の当初から、いくつかの建築関係の雑誌を通じて各種の情報発信を行ってきた。特に、『建築技術』誌には、協会設立直後より現在に至るまで、毎号 3 ページ

を本協会のために割いていただき、そのうちの 2 ページに、本協会の会員を中心とする技術エッセイを掲載している。本協会が本年度で設立 10 周年を迎えることになり、これまでに『建築技術』誌に掲載された技術エッセイ 96 編を取りまとめて、記念誌を作成した。これが、「建築技術のかけ橋」である。

このタイトル「かけ橋」は、サーツの活動目的に由来している。すなはち、サーツは、若い新進技術者とベテラン技術者のかけ橋になっていきたい、そして、建築

技術の専門家と一般市民（非専門家）とのかけ橋になっていきたい、という大きな期待がある。今回纏めた記念誌もこのような「かけ橋」の一環である。

エッセイの内容は、サーツ会員の幅の広さを反映して、建築に関わる多くの分野が取り上げられ、技術の変遷、提言、体験、教育、期待等が執筆者の目を通して熱く語られている。したがって、このエッセイ集は、ある意味で、サーツの実態を表しているといえる。

『建築技術』誌における技術エッセイの掲載は現在も続けられており、2007 年 8 月号からは、「私の建築放浪記」というシリーズ・タイトルで掲載している。また、2009 年 8 月号からは、「わたしの技術伝承ノート」というタイトルで新しいシリーズが発足する。

10 周年記念誌として纏めるにあたり、内田祥哉先生（本協会会員、東京大学名誉教授）に「日本の建築技術史 100 年の概観」という貴重な巻頭文を書いていただいた。ここに、深く感謝する次第である。

■ 出版元／NPO 法人 建築技術支援協会

■ B 5 判 204 頁 非売品

最近、私の読んだ本・・・本間繁敏

■ 不幸になる考え方をやめる！／著者：本多時生



今回、投稿依頼を受けた際に、最近本を読む時間がなく困ってしまった、というのが本音でしたが、一寸前に家内がコーチングという仕事をしている時に、たしか一時に 20 冊ほど購入した中の 1 冊にあったもので、タイトルが気に入り読んだこの本をご紹介します。

筆者が言うところの「不幸になる考え方をやめる！」とは、日常の様々な場面で、少しでもイヤになる（感じる）時間を減らして、その分の時間を幸せになる（感じる）ために使うということで、少しでも幸せと思えるような生き方をすることが大切なのでは、ということでした。

人にはそれぞれ性格があり、不幸になる性格として「イライラする」とか「くよくよする」があり、その性格を変えることが出来れば、ちょっとしたことにもへこたれずに済むはずなのですが、そうはいつでも今さらその性格を変えるということは困難です。そこで「性

格」を変えようとするのではなく、そういった考え方をしてしまう「クセ」と認識し、自分自身が気をつけることで、その「クセ」があることを自覚することができれば、少しでも気が楽になるといっています。簡単にいうと「消極的な考え方をするクセ」から「積極的な考え方をするクセ」にすることで、幸せを感じる時間をつくるのが出来るといっていますが、私にはかなり難しそうです。

仕事においてもプライベートにおいても、人と接しないことはなく、それぞれ違った「性格」や「クセ」があるわけですから、なかなか簡単に幸せと感ずることは少ないことは明白です。そういった中でも少しでも楽しく仕事をして、また家族や友人と楽しいと感じることができる時間を少しでも多くつくるためには、人に頼り任せるのではなく、自分でそうなるように努力することが大事であるとの本を読み感じています。

■ 発行元／アルファポリス

■ 四六判 190 頁＝1,260 円（税込）